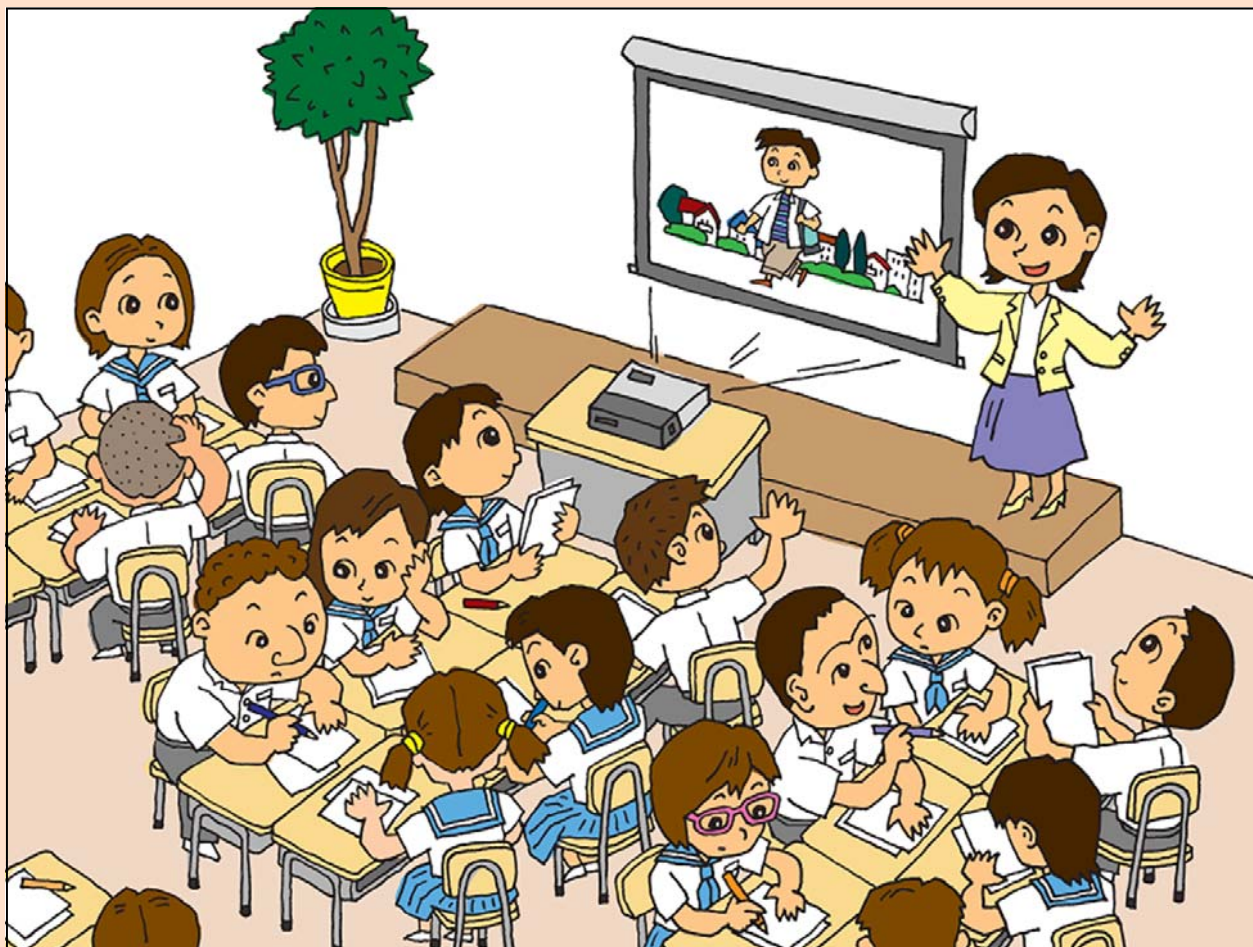




津波防災ワークショップ 解説書 (基本編)

平成30年3月

【基本編】

ワーク



- ・今から、津波防災ワークショップを始めます。
- ・津波って何か知っていますか？（生徒の意見を確認する。）
- ・そうですね、海の下で大きな地震が起こると、津波が来るおそれがあります。
- ・地震が起きて津波が来たら、みなさんはどうすればいいでしょうか？（生徒の意見を確認する。）
- ・そうですね、「高い所に逃げる」。これは一番重要な事です。
（津波に巻き込まれると命の危険があるので、高所に逃げる必要があることを確認する。）
- ・では、みなさんは、津波が来る前に本当に高い所に逃げる事ができるでしょうか？
（生徒の意見を確認する。）
- ・みなさんだけでなく、みなさんの大切な人、家族や友達、知っている人やたまたま近くにいる人を津波から守ることはできるでしょうか？（生徒の意見を確認する。）
- ・今日の「学習のめあて」です。（学習のめあてを板書する。）

学習のめあて

「自分自身・家族・大切な人の命を津波から守るために、自分ができを考える。」

- ・それでは、ワークショップを進めていきます。

[Enter]

グループワークの進め方
(場面設定)



- ① まず、主人公の名前(〇〇くん)を決めてください。
(決まったら、地図に名前を書く)
- ② 日曜日、〇〇くんは、海に近いA市で開かれているイベントに参加するため、会場に向かっていきます。
- ③ 会場近くのコンビニエンスストアに入った時、突然大きな地震が発生しました！
- ④ いろいろな場面で、〇〇くんがとる行動をみんなで考えていきましょう。



■ 留意点

最初の場合面設定を**理解する事が**、グループワークを進める上で肝心です。
「主人公ハルトくんの行動をみんなで考える」というルールを理解してもらいます。

- ・まず、机の上にあるものを確認します。みなさんの机の上には、地図が2枚、行動メモ、マジック、定規が置かれています。全部ありますか？
- ・では、グループワークの進め方を説明します。
- ・スライドの男の子は、みなさんと同じくらいの年ですね。名前はハルトくんです。
- ・① 今日は日曜日。ハルトくんは、海に近い街のA市で開かれているイベントに参加するため、イベント会場に向かっていているところです。
- ・② 会場近くのコンビニエンスストアに入った時、突然大きな地震が発生しました。さて、これから、ハルトくんは、どのように行動しますか？
- ・③ 時間とともに、いろいろな場面が出てきますので、ハルトくんがとる行動について、班のみなさんで考えていきましょう。

・いいでしょうか。

[Enter]



- ・次に、ハルトくんが、今、持っているものを確認します。
- ・ハルトくんが持っているものは、携帯電話（スマートフォン）、財布、それから、みなさんの机の上にもある、イベント会場に行くための地図です。
- ・そのほかにも、みなさんがいつも持ち歩いている物があれば、それも持ち物として考えてください。
- ・では、この地図を見てください。

[Enter]



- ・地図の中で、まず、灰色の線は「道路」です。青色の線は「川」です。灰色の道路と青色の川が交わっている所に「橋」があります。
- ・皆さんは、川の向こうに行くためには「橋」を渡って行かなければなりません(川を泳いで渡ることはできません)。
- ・地図の端に、黄色や茶色の所があります、ここは、平らな場所と比べて、小高い山(丘)になっている所です。
- ・また、道路の脇には、建物があります。建物にも、いくつか種類がありますので、よく見てみてください。
- ・地図の真ん中に、今、赤いマルで「スタート」と書かれています。今、ハルトくんはここにいます。このスタート地点から見た景色の写真が貼られているのが、もう1枚の写真がついている地図です。
- ・あまり高くない建物が多いことが分かります。また、遠くまで平らになっていることが分かります。

[Enter]

――想定される質問①――

問. 今いる場所は、海からどのくらい近いのですか(地図の中に海が描かれていないので、海からどのくらい離れているか判断できない)。

答. 今、ハルトくんがいる所は、海の近くでしょうか？ それとも、海から遠いのでしょうか？ それ分からない時はどうすればいいのでしょうか？ ということも、グループワークの中で話し合いながら考えてみてください。写真をよく見ると、ヒントがあるかも知れません(踏み切りの横の電柱に標高揭示板があります)。(情報を持っていない時にどう行動すべきか考えることも、ワークショップの目的の一つであるという趣旨を含めて回答する。)

――想定される質問②――

問. 海はどの方向にあるんですか。

答. 海がどの方向にあるのか分からない時は、どうすればいいのでしょうか？ ということも、グループワークの中で話し合いながら考えてみてください。(情報を持っていない時にどう行動すべきか考えることも、ワークショップの目的の一つであるという趣旨を含めて回答する。)

行動メモの書き方(例)	
地震発生直後	まず、落ち着く！ ケガをしていないか確認。
1分後	〇〇〇をする。 △△△を見る。
2分後	...

・思いついたことをどんどん書いてください。
・簡単な文章で書いてください。

- ・もう1枚、「行動メモ」という大きな紙があります。
- ・これは、今からみなさんが話し合ってハルトくんの行動を決める時のメモ紙になりますので、班の中で、誰か一人、メモしてくれる人を決めてください。
- ・(もちろん、メモを取る人も、話し合いに参加します。)
- ・この「行動メモ」には、みなさんが思いついたことを、どんどん書いていきます。
- ・メモをとる時間はあまり無いので、「〇〇をする。」「△△を見る。」のように、簡単な文章で書いてください。
- ・書き間違えても、消しゴムで消していたら時間が過ぎてしまいますので、消しゴムは使わず、横線で消すだけにしてください。
- ・メモですので、落書きのようになって、まったく問題ありません。
- ・また、時間を区切って行動を考えていきますので、すべての行動を一気に書いてしまわないように気をつけてください。

[Enter]

班名	年 組 班
名前	木村 大樹

主人公がとる行動

1分後

安全な所へ移動する。
床に伏せている。

3分後

テレビを見て現状を知る。
高台を避ける。

5分後

ここまで津波が来るかもしれないから
にげたほうがいいと思う。

7分後

家の屋上に上がる。

地震が起きてすぐ電車が止まった。
・さけびながらにげたのはよかった。
・現状を知ることができたのがよかった。

――進行のポイント――

- ・メモは、各場面でどのような行動をとったかを確認するために使います。発表の時に見せることはありませんので、きれいにまとめる必要はありません。

用意はいいですか？



- ・準備の説明はここまでです。
- ・用意はいいでしょうか。
- ・それでは、早速、始めたいと思います。

[Enter]

―――進行のポイント―――

- ・これまでの設定にない部分については、なるべく各班で話し合って考えてもらうように促しましょう。
- ・学習めあての確認からルールの説明までの進行を円滑に進めるため、本コンテンツに付属の学習プリントもご利用ください。
- ・次のスライドはすぐに音になりますので、ここからグループワークが始まる事を強調してください。



■ 留意点

地震の大きな揺れによる被害をイメージしてもらうことを目的としています。

[動画終了後、Enter]

——コンテンツ利用上の注意点——

この動画は、「平成28年(2016年)熊本地震」で大きな揺れが発生した時の、コンビニエンスストア内の様子です。この動画は、本ワークショップの中での利用のほか、地震・津波防災の普及啓発の中で利用することができます。



- ・はい、大変大きな揺れでしたね。ようやくおさまったようです。
- ・さっき、ハルトくんが持っている携帯電話が鳴りましたね。何の音か知っていますか（生徒の様子をうかがう）。
- ・そう、緊急地震速報ですね。大きな地震が起きた時に、「今から大きな揺れが来ますよ！」ということをお知らせする警報です。
- ・コンビニの中はめちゃくちゃですが、なんとか、ハルトくんにはケガは無かったようです。

[Enter]

地震発生から1分たちました



家族から電話がかかってきました。
「すごく大きな揺れだったけど、大丈夫？！今どこにいるの？！心配だから、今から30分で車で迎えに行くから、そこで待ってなさい！」

どうしますか？

とるべき行動を話し合ってください(2分間)。



スタート！

1分経過

2分経過

■留意点

いざ地震が起きた後、避難を躊躇するような場面があることを知ってもらいます。

・(携帯電話が鳴る音が流れます。)

- ・地震が起こってから1分がたちました。
- ・家族から携帯電話に電話がかかってきました。
- ・「もしもし、今すごく揺れたけど大丈夫？今どこにいるの？コンビニにいるの？心配だから、今から30分で迎えに行くから！そこで待ってなさい。いい？分かった？」
- ・さて、ハルトくんはどうしますか。
- ・各班でハルトくんがとる行動を話し合ってください。そして、行動メモの「1分後」と書いてあるところに、地震が起こってからの行動をどんどん書いていってください。
- ・時間は2分間です。はい、始めてください。

[Enter]

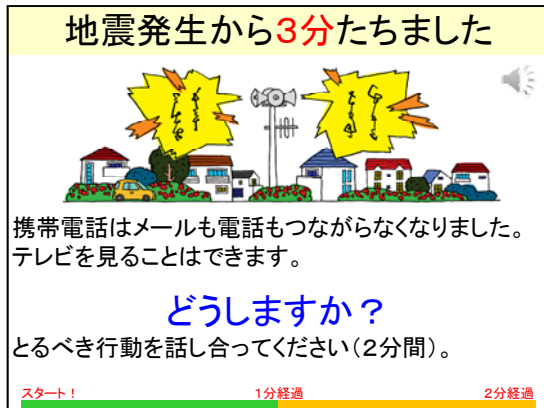
(2分経過)

- ・それでは、2分たちましたので、どんな行動をしたか聞いてみたいです。最初に、○班さん、お願いします。
- ・はい、ありがとうございます。
- ・それでは、○班さんと同じか、似たような行動をする班は手を挙げてください。
- ・では、○班さんとは違う行動をする班はいますでしょうか。手を挙げてください。では、△班さん、お願いします。(各班の行動を確認する。)
- ・はい、各班の行動をまとめると、○班さんと□班さんは・・・、△班さんと×班さんは・・・ということになります。いいでしょうか。
- ・では、次に行きたいと思います。

[Enter]

――進行のポイント――

- ・班の数が多くて、すべての意見を聞く時間が無いときは、最初に発表した班と異なる判断をした班に絞って発表してもらいます。
- ・各班の行動内容が具体的に分かるように、司会は詳細な行動について、発表者に問いかけることを心がけてください。



・(サイレンから放送音が流れます。)

- ・今サイレンが鳴りましたね。何と言っていたか聞こえた班は手を挙げてください。
- ・あれ、さっきまで電話がつながったのに、今はもう電話がつながらなくなりました。メールを送ることもできません。でも、テレビだけは見る事ができるようです。
- ・さて、ハルトくんは、これからどうしますか。
- ・各班で、ハルトくんがとる行動を話し合ってください。そして、行動メモの「3分後」と書いてあるところに、これまでにとる行動をどんどん書いていってください。
- ・時間は2分間です。はい、始めてください。

[Enter]

(2分経過)

- ・それでは、2分たちましたので、どんな行動をしたか聞いてみたいです。最初に、○班さん、お願いします。
- ・はい、ありがとうございます。
- ・それでは、○班さんと同じか、似たような行動をする班は手を挙げてください。
- ・では、○班さんとは違う行動をする班はいますでしょうか。手を挙げてください。では、△班さん、お願いします。(各班の行動を確認する。)
- ・はい、各班の行動をまとめると、○班さんと□班さんは・・・、△班さんと×班さんは・・・ということになります。いいでしょうか。
- ・では、次に行きたいと思います。

[Enter]

―――進行のポイント―――

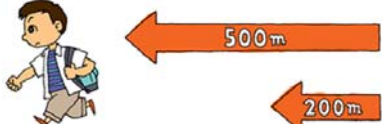
- ・サイレンが何を言っていたか聞き取れるとは限らないので、聞き取れなかった班に対して司会が放送内容を補足説明する必要はありません。
- ・各班の行動内容が具体的に分かるように、司会は詳細な行動について、発表者に問いかけることを心がけてください。

地震発生から5分たちました

1分後(家族と電話した時)までに「移動する」と考えた班
→**500m**動いてください。

「道の無い方向に行く」と考えた班
→**200m**動いてください。(家や川は通れません)

3分後(サイレンが鳴って)から「移動する」と考えた班
→動ける距離は**上の半分**になります。



■ 留意点

初動が早いほど避難する距離をかせげることを**経験**してもらいます。

- ・地震が起こってから5分たちました。ここからは“作業の時間”です。
- ・地震が起こってから1分(家族と電話をしていた時)までの間に「移動する」と考えた班は、500m動くことができます。
- ・道の無い方向に移動する時は200mです。川や人の家を横切っていくことはできません。横切れるのは、田んぼくらいでしょうか。
- ・一方で、地震が起こってから3分後、サイレンが鳴ったあとで「移動する」と考えた班は、(スライドの)上の、それぞれ半分だけ動くことができます。
- ・地図の左下に500mの長さを示す棒がありますので、それも参考にして、移動してください。

[Enter]

――進行のポイント――

- ・地図の作業が円滑にできているか様子を見守ります。やり方が分かっていない班があれば、説明を補足してください。

ワーク



- ・100mが、地図の中では1cmになります。
- ・皆さんが動ける距離を定規で測って、(スライドにあるように)ハルトくんが移動した道と、5分後にいる所に印をつけてください。
(作業が遅れている班がないか、補助者が確認し、作業を支援します。)
(すべての班の作業が完了したことを確認して次に進む。)
- ・では、次に行きたいと思います。

[Enter]



――想定される質問①――

問. 問. 車(自転車)で移動しても良いですか。

答. では、どのような方法で車(自転車)に乗ることができるようになりましたか？

(説明ができるものであれば)では、車(自転車)で移動する場合は2倍の距離を移動することができます。(この時点では「車や自転車を使って移動する」という判断を否定しません。具体的にどのような判断、方法で車(自転車)で移動できるようになったのか、そのプロセスを説明してもらいます。その上で、この時点では徒歩よりも長い距離で移動できるようにします(例. 車で移動する場合は800m移動可)。ただし、移動直後に、渋滞・パンク等のアクシデントが発生し、アクシデントに対する何かしらの対応

(車を捨てる、自転車を捨てる、など)をしない限り、その班は動けないなどのペナルティを課します。例えば、「先ほど、車に乗って移動する班がありました。さっきまで動いていたのですが、渋滞が発生して車ではまったく動けなくなってしまいました。このままだとずっと動けません。どうしますか？」など。)

地震発生から7分たちました

また大きな地震が発生しました！

被害が発生したようです。

橋に大きなヒビが入りました。



がけ崩れが発生しました。



塀や電柱が倒れてきました。



・7分後。また、大きな地震が発生しました。この大きな地震のせいで、別の被害が発生したようです。

・どんな被害が起きたのでしょうか。

・[Enter]

・はい、ある場所では、橋に大きなヒビが入ってしまいました。

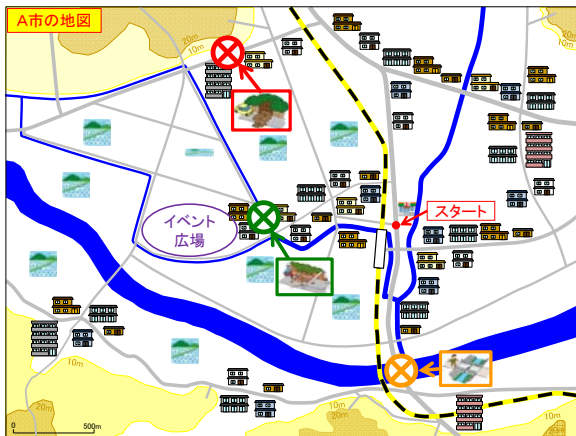
・別の場所では、がけ崩れが起きてしまいました。

・また別の場所では、塀と電柱が倒れてきてしまいました。

・どこで被害が起きたのでしょうか。見てみましょう。

[Enter]

ワーク



- ・「橋にヒビが入った」場所は、(地図中を指して)オレンジ色。
- ・「崖崩れが起きた」場所は、(地図中を指して)赤色。
- ・「塀と電柱が倒れてきた」場所は、(地図中を指して)緑色に×印をつけてください。
- ・この×印をつけた所は、通れなくなってしまいました。
(作業方法が分からない班があれば、適宜、支援する。)

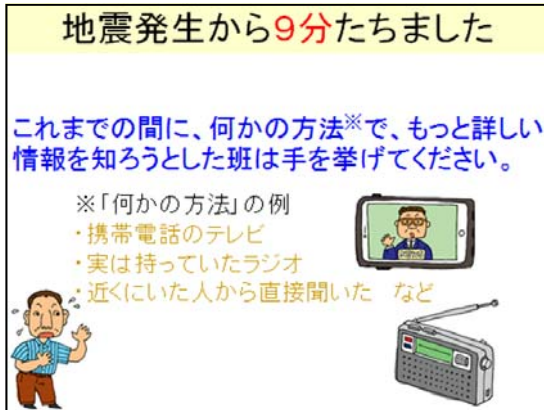
(全ての班が作業を終えたことを確認する。)

- ・では、次に行きたいと思います。

[Enter]

――― 進行のポイント ―――

- ・最終的に各班の地図3か所×印がついたのを確認してください。



- ・地震が起こってから9分がたちました。
- ・今までみなさんが考えてきた行動は行動メモに書かれていると思います。
- ・この行動メモを振り返ってみてください。
- ・これまでの間に、何かの方法で、もっと詳しい情報を知ろうとした班は手を挙げてください。
- ・「何かの方法」というのは、携帯電話のテレビを確認したり、じつはラジオをいつも持っているから確認できたり、いろいろあると思います。

(手を挙げている班を確認。)

- ・○班と□班ですね。

[Enter]

――進行のポイント――

- ・メモに書いていなくても、「情報を知ろうとした」という班の合意があればOKにしてください。

手を挙げている班は、気象庁が発表した
詳しい情報を知ることができます。



■ 留意点

情報を手に入れようとする行動を行うことにより、その後が有利な展開になることを経験してもらいます。

・今、手を挙げている班のみなさんは、気象庁が発表した、より詳しい情報を知ることができます。

(気象庁が発表した情報を記載したカードを裏返しにして、手を挙げていた班に1枚ずつ手渡しする。)

・では、次に行きたいと思います。

[Enter]

――― 進行のポイント ―――

・知り得た津波情報は周囲にも積極的に伝えることが望ましいため、カードを渡す時、司会は「他の班に見せてはいけない」という素振りは見せないようにしてください。

地震発生から10分たちました

- ・これまでに、「移動する」と考えた班
→500m動いてください。
- ・「道の無い方向に行く」と考えた班
→200m動いてください。(家や川は通れません)
- ・「移動する」とは考えなかった班
→その場から動かないでください。



- ・地震が起こってから10分たちました。また“作業の時間”です。
- ・引き続き「移動する」と考えた班は500m動いてください。道のない方向に移動するとき
は200mです。
- ・移動すると考えなかった班はその場を動かないでください。
(作業が遅れている班がないか、作業を支援します。)
(すべての班の作業が完了したことを確認して次に進む。)

・では、次に行きたいと思います。
[Enter]

地震発生から12分たちました

地元に住んでいる人に会いました。
「いやあ・・・大きな揺れだったなあ。
今、家の中を片付けているところだよ。
津波？大丈夫。ここまで来た事ないよ。
周りのみんなも逃げてないでしょう？」



どうしますか？

とるべき行動を話し合ってください(2分間)。

スタート！

1分経過

2分経過

■留意点

おじいさんを「見捨てる、見捨てない」
の話に終始しないように、「今自分にできることは何か」「みんなが助かるために必要なものは何か」を考える場にして下さい。

- ・地震が起こってから12分後。地元に住んでいるおじいさんに会いました。
- ・「いやあ、大きな揺れだったなあ。タンスも食器棚も全部ひっくり返ってしまって、今、家の中を片付けているところだよ。」
- ・「津波？大丈夫だよ。今まで、ここまで来たことないよ。」
- ・「周りのみんなも逃げてないでしょう？」
- ・さて、ハルトくんはどうしますか。
- ・各班で、ハルトくんがとる行動を話し合って、行動メモの「12分後」と書いてあるところに、どんどん書いていってください。
- ・時間は2分間です。はい、始めてください。

[Enter]

(2分経過)

- ・それでは、2分たちましたので、どんな行動をしたか聞いてみたいです。最初に、○班さん、お願いします。
- ・はい、ありがとうございます。
- ・それでは、○班さんと同じか、似たような行動をする班は手を挙げてください。
- ・では、○班さんとは違う行動をする班はいますでしょうか。手を挙げてください。では、△班さん、お願いします。

(各班の行動を確認する。)

- ・はい、各班の行動をまとめると、○班さんと□班さんは・・・、△班さんと×班さんは・・・ということになります。いいでしょうか。
- ・では、次に行きたいと思います。

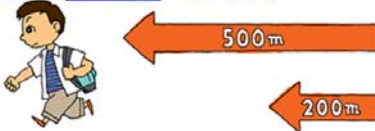
[Enter]

―――進行のポイント―――

- ・各班の行動内容が具体的に分かるように、司会は詳細な行動について、発表者に問いかけることを心がけてください。
「○班さん、おじいさんの手を無理やり引っ張って連れて行くということですね？など」

地震発生から15分たちました

- ・これまでに、「移動する」と考えた班
→500m動いてください。
- ・「道の無い方向に行く」と考えた班
→200m動いてください。(家や川は通れません)
- ・住民の人を連れて「移動する」と考えた班
→動ける距離は上の半分になります。



■ 留意点

何か他のことにかまっていると、津波からの避難が遅れてしまうことを知ってもらいます。

- ・地震が起こってから15分たちました。“作業の時間”です。
 - ・引き続き「移動する」と考えた班は500m動いてください。道のない方向に移動するときには200mです。
 - ・おじいさんを「無理やり引っ張って移動する」と考えた班は、それぞれ半分の距離になります。
- (作業が遅れている班がないか確認し、作業を支援します。)
- (すべての班の作業が完了したことを確認して次に進む。)

- ・では、次に行きたいと思います。

[Enter]

地震発生から17分たちました

(気象庁発表の詳しい情報を知っている班へ)
これまでに、「詳しい情報の内容を、周りの他の人にも教えよう!」とは思いましたか。



■ 留意点

この場面では、自分が知っている情報を伝えることにより、他の班の避難の手助けになることを経験してもらいます。

- ・地震が起こってから17分がたちました。
- ・ここでは、気象庁が発表した詳しい情報を知っている班の人に質問です。
- ・これまでに、気象庁が発表した詳しい情報を、他の人(先ほど出会ったおじいさんも可)に教えようとした班は手を挙げてください。
- ・(ちなみに、「他の人に教えてはいけない」とは言ってません。)

⇒手を挙げた班がいる場合

- ・○班さんが、他の人にも詳しい情報を教えようとしていましたので、ここで、詳しい情報を知らない他の班のみなさんにも、気象庁発表の詳しい情報をお知らせしたいと思います。
- (気象庁が発表した情報を記載したカードを裏返しにして、残りの班に1枚ずつ手渡しする。)

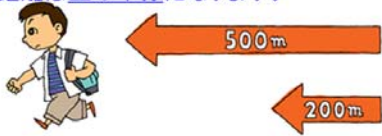
⇒手を挙げた班がいない場合

- ・誰もいないですか？
- ・他の人に詳しい情報を教えようとした班がいれば、残りの班の皆さんも詳しい情報を知ることができたのですが、残念です。
- ・このまま進みたいと思います。
- ・では、次に行きたいと思います。

[Enter]

地震発生から20分たちました

- ・これまでに、「移動する」と考えた班
→500m動いてください。
- ・「道の無い方向に行く」と考えた班
→200m動いてください。(家や川は通れません)
- ・住民の人を連れて「移動する」と考えた班
→動ける距離は上の半分になります。



- ・地震が起こってから20分たちました。“作業の時間”です。
 - ・引き続き「移動する」と考えた班は500m動いてください。道のない方向に移動するとき
は200mです。
 - ・おじいさんを「無理やり引っ張って移動する」と考えた班は、それぞれ半分の距離にな
ります。
- (作業が遅れている班がないか確認し、作業を支援します。)
- (すべての班の作業が完了したことを確認して次に進む。)

・では、次に行きたいと思います。
[Enter]



- ・地震が起こってから20分たちました。
- ・気象庁の詳しい情報にもあったように、大きな津波が海岸にやって来ました！
- ・津波は海岸から押し寄せ、ハルトくんがいる所にどんどん迫ってきます！

[Enter]

津波が迫ってきています！

もう逃げる時間は残っていません！

津波から命を守るために、
最後に、できることは何でしょうか。

2分間だけ、話し合ってください。

スタート！

1分経過

2分経過

■留意点

命を守るために、限られた時間の中で、何かできることはないかを考える時間です。

- ・津波がどんどん迫ってきています。もう逃げる時間は残っていません。
- ・最後に、ハルトくん(とおじいさん?)が、津波から命を守るためにできることは何でしょうか。
- ・もし逃げたい所まで逃げれなくても、どうすれば助かるか、考えてみてください。
- ・2分間だけ話し合ってください。はい、始めてください。

[Enter]

(2分経過)

- ・はい、2分がたちました。

[Enter]



■ 留意点

ここでは、各グループで何を考えて、どのように行動したのか、司会からも問いかけながら、具体的に発表してもらい、みんなで共有します。

・それでは、このスライドの地図の上に、ハルトくんがいる場所に付箋を貼り付けてください。(全班に付箋を配布する。)

(ここで一度、休憩を取ります。)

(後半)

・それでは、最初に地震が起こってからどのように行動したか、そのあと、どのように行動して、最終的に今、どこで何をしているのか発表してもらいます。

・○班さん、お願いします。

(地震発生直後からの一連の行動を説明してもらう。)

(自分たちの判断が周囲にどのように影響したのか再確認できるように、「家族はどうなったか」「住民の人はどうなったか」を問うこと。)

・はい、ありがとうございました。では次に△班さんお願いします。

(前半45分のみ実施する場合、全ての班に発表してもらうと時間が不足するので、特徴的な行動をとった班に代表して発表してもらいます。)

・はい、では津波が来てどうなったのか、見ていきます。

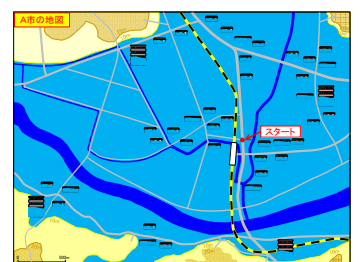
[Enter]

・○班さんと□班さんがいる所には、津波は来なかったようです。

・△班さんがいるところは津波が来てしまいました。

・×班さんがいるところは、ギリギリですね。

・地図のほとんど場所に津波が来てしまいました。2階建ての建物も水に漬かってしまいましたが、屋根だけは何とか残っているようですね。



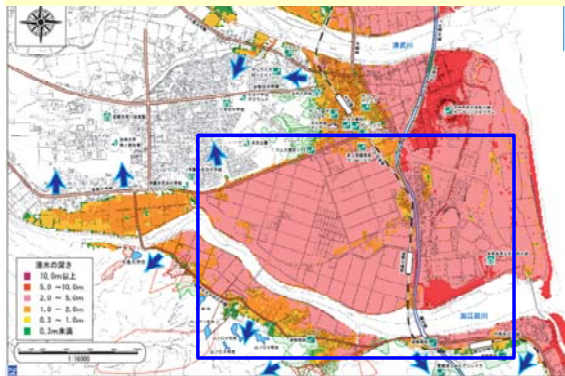
—— 進行のポイント ——

・地震発生直後からの一連の行動を説明してもらいます。

・何を発表すればよいか分からない場合は、「地震が起きてから最初に何をしましたか」など声をかけてあげましょう。

・自分たちの判断が周囲にどのように影響したのか再確認できるように、「家族はどうなったか」「住民の人はどうなったか」を問うようにしましょう。

A市の津波ハザードマップ



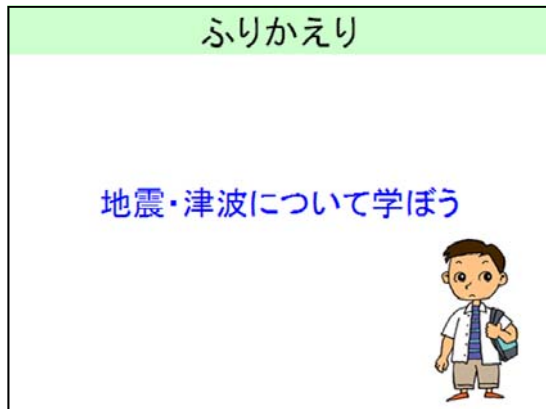
■ 留意点

ここでは、ハザードマップというものがあることを知ってもらいます。

- ・じつは、A市は本当にある町をモデルにしています。
- ・そして、このA市が作ったハザードマップがこの地図になります。
- ・今日使った地図は、この青色の四角の部分です。
- ・本当に大きな地震が起こると、A市の町の中の広い範囲に津波が来るだろうと考えられています。
- ・もし本当に地震が起きた時に、みなさんがたまたまこのA市にいたら、今日のようなことになります。

[Enter]

各場面のふりかえり



- ・はい、ここまでグループワークをしてきました。
 - ・これから、グループワークの中で出てきた場면을振り返ってみましょう。
- [Enter]

各場面のふりかえり



■ 留意点

地震のときは、「あわてずに、身を守る」というの原則です。

周囲の状況により具体的行動は異なるので、日頃からいざという時の行動を考えておきましょう。

- ・まず、大きな地震が起きたら。
- ・地震は、いつ、どこで起こるか分かりません。みなさんが学校にいる時かも知れませんが、夜、寝ている時かも知れません。
- ・今日のように、コンビニにいる時に地震が起きたら、棚から物がたくさん落ちて来ます。もしかすると棚ごと倒れてくるかも知れません。
- ・お酒のビンが割れて破片が飛び散ったり、重たい缶詰が飛んできたりするかも知れません。
- ・皆さんの身の回りには、いつも、このように「落ちてくるもの」や「倒れてくるもの」がたくさんあります。

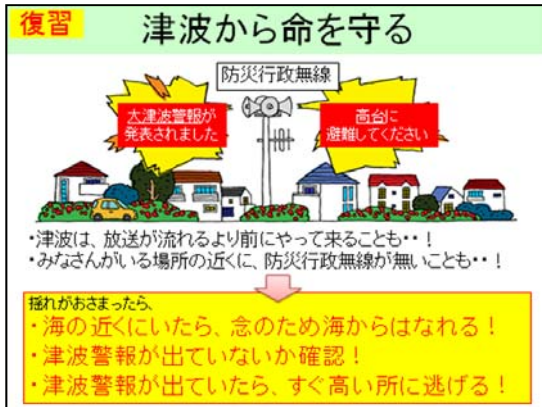
[Enter]

- ・そのため、地震が起きて揺れを感じた時や、緊急地震速報を聞いた時は、「落ちてくるもの」や「倒れてくるもの」から離れる。
- ・そして、飛ばされないように、姿勢を低くして、とにかく頭を守ってください。

・いいでしょうか。

[Enter]

各場面のふりかえり



■ 留意点

ここでは、津波警報(大津波警報)が発表された時や、地震で大きな揺れを感じた時にとるべき行動を説明しています。

- ・地震が起こってから3分後にサイレンが鳴りました。
- ・このサイレンは、防災行政無線といって、皆さんが住んでいる町にもあります。
- ・(いつもは、「5時になったので、お家に帰りましょう。」といった放送が流れたりします。)
- ・今日は、この防災行政無線から、「大津波警報が発表されました！高台に避難してください！」という放送が流れました。
- ・こうした放送を聞いて、津波警報が発表されていることが分かったら、いち早く、高い所に避難しなければなりません。

[Enter]

- ・でも、今日は、地震が起こってから20分後に津波が来る設定でしたが、地震が起こる場所によっては、(この放送が流れるよりも)もっと早く津波が来てしまうことがあります。
- ・また、そもそも、みなさんがいる場所の近くに防災行政無線が無くて、この放送が聞こえないかも知れません。
- ・そのため、皆さんは、地震の揺れがおさまったら、まず、念のため、海からはなれる。
- ・そして、津波警報が出てないか、色々な方法を使って、確認する。
- ・もし、津波警報が出ていたら、すぐに高い所に避難する。

・いいでしょうか。

[Enter]

――進行のポイント――

- ・今回は20分後に津波が来る設定ですが、地震が起こる場所によっては、もっと早く津波が来ることもあります。津波は20分で来ると勘違いして覚えないように、この部分を強調してください。

各場面のふりかえり



■ 留意点

映像資料により、津波の怖さを理解してもらい、津波警報(大津波警報)が発表されるような時は、非常事態であるという共通認識がもてるようにします。

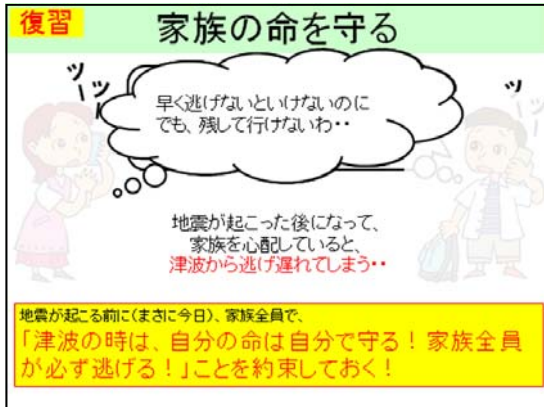
- ・では、ここでみなさんに見てもらいたい映像があります。
- ・例えば、50cmくらいの津波だったら、みなさん、大丈夫だと思いますか。
- ・これは、50cmの津波が危ないかどうか実験したものです。

[映像をクリックして再生]

- ・これは、津波と普通の波を比較しています。普通の波は寄せては返していますが、津波は、同じ高さの波がずっと押し寄せます。
- ・この津波に飲み込まれると、50cmの高さでも、大人でも流されてしまいます。
- ・とても泳いで逃げることはできない、というのは分かってもらえると思います。

[動画終了後、Enter]

各場面のふりかえり



■ 留意点

自分だけでなく家族の命を救うためには、何をすれば良いのか解説しています。

- ・次に、お母さんから電話がかかってきた場面です。
- ・今日は、最初だけ電話が繋がりましたので、お母さんと連絡を取り合うことができましたね。
- ・でも、大きな地震が起きると、電波をつなげる建物が被害を受けたりして、最初から電話が繋がらなくなったりします。

[Enter]

- ・電話が繋がらないと、お母さんはみなさんのことを心配して、早く帰って来るのを待っているかも知れません。
- ・そんな時に、みなさんは迷わず、高い所に逃げられるでしょうか。

[Enter]

- ・お母さんも、連絡がつかないので、みなさんのことが心配です。高い所に逃げないといけないことは分かっているけど、みなさんを残して、一人で高い所に逃げられるでしょうか。
- ・地震が起こった後になって、慌てて家族を心配していると、津波から逃げ遅れてしまいます。

[Enter]

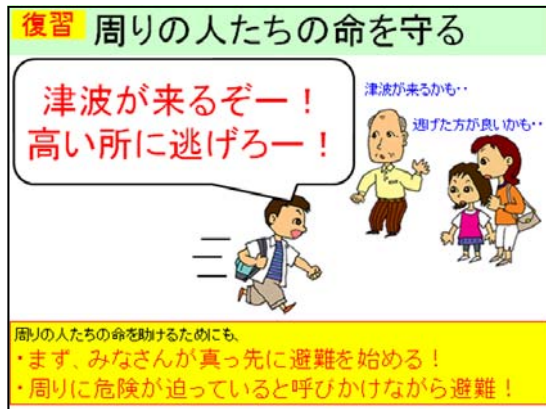
- ・そのため、地震が起こる前、まさに今日お家に帰ってから、家族全員で、「津波が来た時は、自分の命は自分で守るから、お互いを心配しなくて大丈夫! 家族全員が、それぞれ、必ず逃げる!」ことを約束しておく。これが一番大切です。
- ・いいでしょうか。

[Enter]

――補足説明――

- ・じつは、平成23年の東日本大震災の時も、地震が起こったあと、家族のことを心配して、家に戻ったり、逆に、家族を探しに家から出ていったり、待ち合わせの場所でずっと待っていたり、そのような人たちがたくさんいました。そこで、津波に流されてしまった人もたくさんいたことが分かっています。

各場面のふりかえり



■ 留意点

「率先避難」が他者の避難にもつながることを解説しています。

- ・次に、地元に住んでいるおじいさんと出会う場面がありました。
- ・おじいさんは「津波？大丈夫。ここまで来た事ないよ。周りのみんなも逃げてないでしょう？」と言っていました。おじいさんは、これまで生きてきた中で、ここまで来るような大きな津波は見たことないんですね。だから、まさか今日そんな津波が来るとは起こると思ってもない。
- ・しかも周りの人もみんな逃げてないので、ますます、自分だけ逃げても仕方がないじゃないか、と思ってるんですね。
- ・みなさんもどうですか。今いる場所に本当に津波が来るといいますか？

- ・じつは、本当に大きな地震が起きても、みんな逃げないんです。
- ・なぜなら、今日、そんな大きな津波が来るとは思わないから。そして、周りのみんなも逃げないから。逃げる気持ちが無い人たちを連れて行こうとしても、時間がかかるばかりで、今度は皆さんが津波から逃げられなくなってしまいます。
- ・じゃあ、どうすれば、周りの人たちを津波から助けることができるでしょうか。

[Enter]

- ・それは、みなさんが先頭に立って真っ先に逃げてください。
- ・そして、大きな声で周りに「津波が来るぞー！」とみんなに呼びかけながら逃げてください。
- ・こうすることで、周りにいる人たちにも、「あ、これは本当に津波が来るかも。」「逃げた方がいいかも。」ということが伝わって、みんな避難を始めるようになります。
- ・周りの人たちの命を守るためにも、まず、みなさんが先頭に立って真っ先に避難を始めることです。そして、周りに危険が迫っていることを呼びかけながら避難すること。これが大切です。いいでしょうか。

[Enter]

—— 補足説明 ——

- ・率先避難の話をスズメの群れに例えます。「危ない！」と感じた1羽のスズメは真っ先に飛び立ちます。それに反応して、他のスズメたちも危険を感じて、次々に飛び立ちます。こうして、すべてのスズメが逃げていきます。これと同じです。

活動のふりかえり

みんなでふりかえろう！

- 各場面のふりかえり
「あのとき、こうすればよかった…」
「こうしていたから良かった！」

**地震・津波への備えについて
家族と話し合いましょう**

■留意点

ここでは、解説をうけて、あらためて各班の行動をふりかえり話し合う中で、気づきを促すことを目的としています。

- ・ここまで、いくつかの場면을振り返りました。
- ・今から、みなさんにもグループワークを振り返って、それぞれの場面で、どのような行動をすべきだったか、または、このような行動をとったから良かった、といった振り返りをしてもらいます。
- ・今から5分くらいで話し合ったあと、簡単に発表してもらいます。それでは、よろしくお願いします。

(各班の発表後、最後のまとめに入る。)

- ・今日のグループワークでは、助かった班や助からなかった班がありましたが、時間や場所が変わるだけでまったく違った結果になるかも知れません。
- ・ですので、今日の結果で「助かったから良かった、助からなかったからダメだった。」というのではなく、これから地震が起こった時に、みなさんと、みなさんの家族、そして周りにいる人の全員が助かるために、何ができるか？ということを考えることが大切です。いいでしょうか。

- ・それでは、最後のまとめとして、みなさんに宿題を出します。

[Enter]

- ・今日、お家に帰って、今日のワークショップのことを家族の方に教えてあげてください。
- ・そして、いざ、家族が離れ離れにいる時に津波が来たら、それぞれが真っ先に避難することを約束してください。
- ・いいでしょうか。
- ・それでは、今日の津波防災ワークショップはこれで終わります。
- ・どうも、ありがとうございました。

——ポイント——

- ・たとえ津波に流された班についても、何かしらの褒めるべき行動に注目し、司会はそのような行動を褒めることを心がけてください。
- ・良くなかったところについては、その班を批判するのではなく、参加者全員の検討課題として位置づけていきます。
更に理解を深めたり、詳しい知識を知りたい場合は資料編を参照ください。

津波防災ワークショップ 解説書 (基本編)

福岡管区气象台 平成29年3月 発行
平成30年3月 改訂

問い合わせ先
福岡管区气象台 防災調査課
〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目2-36
電話 092-725-3614